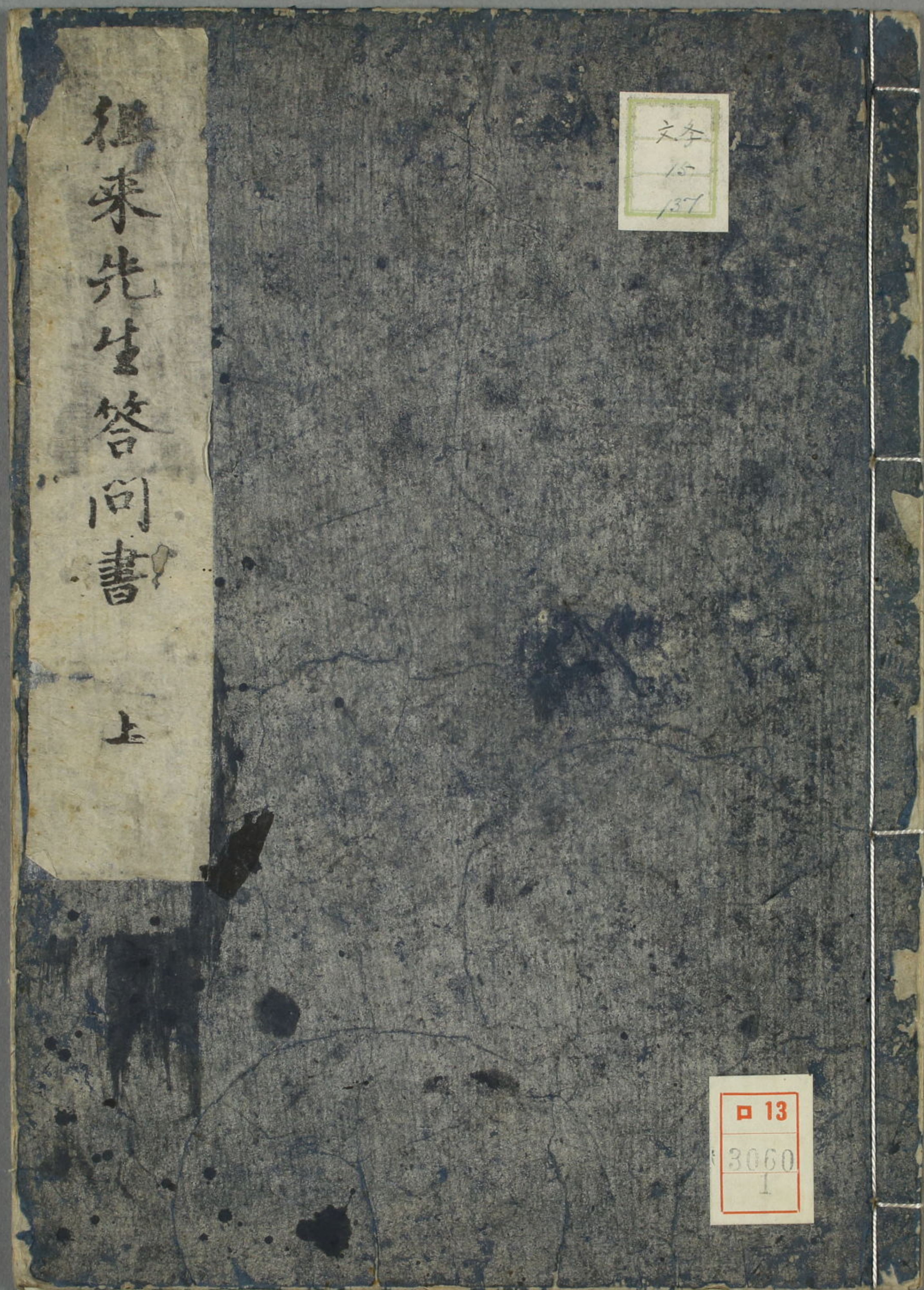




徂來先生答問書

上

文庫
15
137

13
3060
1

徂來先生問答書



答問書序

子遷所校。但來先生。答問書成。子遷蓋
經生家。專修心。為教。得屠氏何。別人皆
天下國家。唯聖人生。不可。自。其。本。
人則何。以哉。禮樂刑政。以至。五。爾。所。具。
經。所。載。窮。年。不可。盡。若。以。修。心。足。矣。則。
學。或。可。矣。何。必。讀。書。然。後。行。也。世。之。以。
者。不。復。經。書。是。也。即。其。所。謂。古。訓。也。



口13
3060
1-3

心
ノ
リ



答問書序



子遷所校徂來先生答問書成子遷蓋謂
經生家專修心為教浮屠氏何別人皆曰
天下國家惟聖人生知不可尚已自非聖
人則何以哉禮樂刑政以至百爾所具六
經所載窮年不可盡若以修心足矣則墨
摩氏可矣何必讀書然後行道世之耳學
者亦復經生家是守即稍稍取古經視之

孟子卷之八

皆已經生家附以為說者乃謂聖人之道
六藝之奧亦惟如此而後邈與古違矣則
亦不知聖人之道雖百世無不可行者即
以名高私慕徂來先生者亦不得窺之則
猶尚以世之經生視之見以為迂事情子
遷蓋憂之也余語子遷曰傳焉哉登高必
自卑此書雖以國字行豈不裨益後世哉
且夫非入其門不可觀室家之美雖先生

之門牆大高哉如我與吾子亦皆得與聞
其說而如先生他所著亦未可遽以暗投
人則此書庶乎為先容焉乎以余忝在邦
君之末不得延後生而一諭之乃序其端
以善子遷之舉且以言志之同乙巳之春
西臺滕忠統撰

祖來先生答問書序

自洙泗之道散而大義乖。後世不出聖人。吾誰從也。無已則六籍已。漢收秦餘燼而詩書多缺。然學者猶考信。於是自吾非聖人。信而好古。君子義也。古也者。三代先王聖人之道。六籍所載者。是已。其所損益。雖百世可知也。輪不斲。不得為車。木不剝。不得為舟。後世雖機利者。陸行可舟。與水行

可車與有所不行也。而舟車猶有倫。天道
恢恢。道其則之。七十子沒。而諸家殺亂。瞋
目語難察焉。自好彫龍炙轂。懼然顧化。擾
擾絲棼。道將為天下裂。或謂吾可以為聖
人。或謂通性命之道。可以坐治天下也。後
世祖述此說者。曷嘗不謂聖人之道具是
矣。雖陽為推尊六藝。然事有所不合。則亦
陰斷之。諸子甘心其所徵焉。所謂詩書恒

賦宋史主客問答

言者。子焉為芻狗。曰。吾之可以為聖。則孔
子而後數千餘年。園冠方屨。逢衣博帶。巍
然稱儒者。莫不謂吾是聖也。是何聖。抑何
多也。曰。有此理。蓋可學而為。則孔子而後
數千餘年。寥寥乎不見一人造焉者。而欲
造焉。抑何迂也。則吾不信也。至性命之說。
後世滔滔者。皆以為言。推歸至微。割膚分
理。要亦濫也耳。靜言庸違。其奈天下國家

何。而其徒誦義無窮。此何以稱焉。夫道也者。先王之道也。治天下焉。唯其治天下而國家而身。舉大者而小者見焉。聖亦王者稱也。周公孔子果遵何德哉。君子傳其道。奉承唯謹。用之則行。舍之則藏。是為得耳。非誦古文。安能知本之大義哉。以余既受業。徂來先生也。從遊者時時多。問先生所傳如何。唯是後世多岐。不知所由。瞽者無

相。俛俛何之。有社友根伯修所私錄者。蓋先生所答遠人書也。伯修親在先生塾中。每所見輒從旁私之以秘乎帳中。余既探而得之。遂相與校而授之梓人。其文辭不修飾者。不請之先生也。雖不請之既之亦恃先生之不咎成事也。此書也。雖緒言也。亦舉一隅之道也。學者乃以三隅反。則知先生之學之所由也。知先生之學之所由

也。則知先生所奉承六籍所載先王聖人之道也。此謂知本。先生所著有辨道辨名論語徵諸書未行也。其詳今不具列。云享保甲辰春三月平安服元喬序。

徂來先生答問書上



一何也。平生涉提擲。以成其利。益多。以成之。下進。以多。求其。下。下。幸。境。由。深。切。以。感。公。聖。人。之。道。廣大。無。邊。有。以。成。之。就。中。君。子。之。道。之。下。仁。之。外。小。又。肝。要。有。以。成。之。仁。之。慈。悲。以。事。之。大。形。之。得。以。以。九。慈。悲。小。極。以。成。之。的。切。之。訓。解。以。之。以。天。理。人。欲。之。說。八。後。世。之。見。識。以。大。之。相。遠。之。以。

惻隱心ハ仁也。孟子云。子細有之。事。ウタハ。惻隱心ハ大形ハ。臣民の慈恵。新。以。今日。雅。永。用。詩。經。小。民。之。父。母。之。以。語。ウタハ。是。小。除。ハ。記。注。解。云。ウタハ。民。之。父。母。之。以。事。之。也。又。母。之。其。家。之。事。之。也。其。家。内。之。火。車。之。焼。も。ウタハ。引。ど。り。の。女。房。も。ウタハ。う。た。ー。キ。の。右。郎。子。も。ウタハ。い。づ。の。三。男。者。ハ。う。わ。く。ー。き。媳。婦。も。有。ハ。又。憐。第。ハ。家。

来。年。ハ。用。小。ハ。片。端。の。下。等。客。切。少。り。家。之。に。て。思。に。あ。り。付。と。も。ず。さ。る。若。れ。奴。も。多。く。さ。り。と。ハ。増。え。あ。り。内。と。理。非。あ。て。正。し。ん。ハ。も。も。は。あ。り。の。れ。と。た。る。事。ハ。さ。れ。も。家。之。眷。属。ハ。天。之。授。け。の。者。也。何。方。ハ。逐。出。ア。下。格。ナ。ハ。其。家。之。見。物。有。ん。者。ハ。あ。り。格。ナ。考。え。と。し。下。為。也。炎。天。ハ。火。照。而。畜。を。凌。き。田。と。耕。ま。と。刈。若。し。態。を。勤。ハ。人。ハ。賤。ハ。り。と。恥。辱。大。ナ。ハ。

彼一國と苦いたし。天子の天下と苦ふは福のく
元来天子それ福を附庸をかりて。其福の
上に生きたる。主人のなかき不忠事を完
し。要る風俗不淳て心乃にぬれぬ。堯舜孔子
の道世にゆれず。是非邪正の争ひ聖人の
かりゆを靜うん為のかりの方便。佛老此輩。人
はすも彼もつとを佛の事とて教ひ。小量乃

儒者それを好通と思ひ。其意を以て。聖人の
己を治むより外なり。立派流義廣うり。王公
大人も學問をこれに小量なり。ゆへに。百年
以来世の人役利を先して。出資者と云は事世の
風俗をかりぬ。また其ふ。只商ふれや。それ人
思ひ心ゆき。一切の事。歡し。こゝろ。親れを
も苦ふ。主人の事をかたむ。只吾身ひり
思ふ。今乃世に缺く箇し人。仕。天子附庸は
成。眷属。則天子與之。福なり。と。也。故。見。今。う。

活め乃ち之を聖人の道乃至さうと云ふにたゞ
何程心と活め身と修め。字順の玉れど、修め成
就いたと云ふ若世修め成し心と云ふ。玉れと活め
乃と知る事なり。何れも事なり。佛は民父母
と云ふより見用きなり。何程の令云妙句も。孔子
亦相傳ふ。堯舜禹湯文武周公乃道なり。云泥萬
里此相傳と云ふに。聖人の道と佛老の道との分
きは。只此云と一つ思ふに。以上
一 答。最におもひに疑はれ。その外無しの疑

綱にも教へり。多し入る。修めぬ。数年の事同
し功積る。此疑は数多の蓄へてある。此疑は
蓋し。相見。此志。程感入。想して事同し
相。自分。これ。合點。これ。孔子。孔門。教
は通。これ。未。世。い。なり。教。方。も。学。い。か。も
時。今。時。講。釋。なり。一。年。一。月。と。修。め。を
修。め。疑。も。これ。なり。得。量。なり。之。友。なり。一。種。の
お。ぐ。り。き。理。窟。なり。これ。害。甚。なり。これ。ふ。り。なり。
聖人の道は人情をなれ事はい今の世は合す候し

やへゆ極みぬ。聖人の智。初る極みぬ。聖人の
道。何きれ世ともなり。事しむ候を深く。中陰
てを成ぬ。おれを入る。お又極みの疑出する。以て
此間歴史を中陰を成ぬ。一版し思ふ。好い。通鑑紙
目と中陰を成ぬ。同一事。と資治通鑑を成ぬ。
資治通鑑。かき。あ。それぬ。漸く。いつ。いつ。中陰を
成。か。いつ。有。成ぬ。其時。目録を中陰を成ぬ。通鑑綱
目。綱。目録。その。目。お。父。その。され。資治通鑑。綱
目。その。も。云。なり。綱。の書。綱。目録。と。遠。り。一。字。之

獲。疑。り。いつ。と。主。り。書。り。ぬ。お。中陰。の。何。り。理。察
たり。り。お。学。問。風。朱。子。流。の。理。察。お。成。り。ぬ。以。後
氣。毒。なり。り。に。俗。学。お。綱。目。と。道。理。を。か。き
ゆ。思。ひ。ぬ。夫。ハ。實。学。と。お。か。き。ぬ。綱。目。有。い
歴。代。人。お。評。判。と。い。え。り。評。判。は。い。か。い。ハ。
悉。皆。是。事。と。人。の。う。も。と。計。に。人。の。う。も。と。と。は。い。と
学。問。に。好。り。ぬ。人。柄。に。人。も。学。問。に。好。り。ぬ。人。柄。無。あ
成。り。り。多。い。お。成。り。ぬ。皆。朱。子。流。理。学。中。害。を。お。成。り。ぬ。通
鑑。綱。目。と。見。り。得。ぬ。古。今。の。方。氣。公。人。一。人。も。云。い。ぬ

中。は是解して今世此人を見られ。人柄ある故なり。
やういふ。まゝ綱目も論議。下判を押しやう。
格定より道理一定してわが極まりやう。天地も
活地。人も活地。を。緩やかに縛りやう。おたうと
見ゆ。誠は至用。子同く。只人の利口を長しめて
おられ。事實計し。賢治通達。わが勝りやう。其上
四書。思慮。を。要補。理窟。にきやう。又まゝ
綱目。は。是。を。古今の事跡。上へ。い。て。い。て。
朱子流の理窟。を。お。た。う。て。い。て。い。て。い。て。



子同く。耳長。目。通。く。荀子も。い。国。に。居。て。見。
ぬ。異。ふ。も。も。水。耳。翼。あ。ま。て。死。ね。る。
今。世。に。生。きて。教。子。載。の。昔。の。事。と。今。目。に。あ。く。
なる。長。き。目。なり。事。は。これ。見。聞。廣。く。事。
実。小。なり。と。子。同。く。事。に。あ。る。子。同。く。歴。史。の。
極。まり。の。事。は。古。今。和。漢。一。通。に。あ。り。て。い。ま。今。世。の。
風。俗。も。内。より。目。と。見。え。居。る。事。も。誠。に。井。の。内。乃。
蛙。に。常。て。い。の。世。に。人。も。功。者。なり。人。を。お。た。う。用。
い。ま。ま。功。者。も。い。ま。老人。に。有。る。物。は。國。と。多。く。

事もつ有之。みよの涉詞。君子其言也。認るは
いと。其故とる人も。為之難く。決答ある。君子の
國を治る民を安んずる。一むつ。き事なり。其
ことなり。得に君より。心安く。皆明り候。も。す。め
事。し。中。意。し。て。出。た。り。誠。し。世。俗。に。接。す。も。た。り。ま。の
つ。つ。は。る。ぎ。し。和。吹。中。新。も。経。済。論。に。多。く。有
る。事。に。は。され。た。る。ぎ。は。ま。の。上。ぎ。し。出。た。り。た。経。済。計
事。ハ。玉。を。治。む。り。ま。の。多。く。も。多。し。る。見。分。を
廣。げ。た。る。経。済。の。書。も。出。た。り。事。学。問。を。作。

学問ハ只廣く何とも。か。と。も。入。て。己。の。知。見。を。廣
く。事。を。出。た。り。経。済。の。論。を。と。面。白。く。思。ひ。し。出。て
政。務。に。涉。れ。た。り。し。ま。る。り。而。て。實。に。用。に。な。る。己。の。知。見
小。き。た。り。た。り。し。の。事。も。多。く。思。ひ。己。の。量。小
き。た。り。た。り。し。の。事。も。多。く。思。ひ。己。の。量。小
に。は。是。れ。し。の。事。は。ま。の。事。に。此。戒。め。肝
要。に。は。上。

一 家。下。に。勇。氣。し。不。足。し。候。武。門。に。は。有。る。以。金。銀
し。は。人。し。る。も。知。に。勇。と。三。達。徳。し。り。て。君。子。ハ

視ひる細き事と。元等二等事と。と思ひ。
集義工夫と。理密深く片に地と成り失ひし
物に。又理密と。とられ。場と。なり。却り。人
物と。失ひ。れ。雷雨出。し。物。に。其。の。不。知。天。命。を
以。為。君。子。と。云。ひ。也。如。仁。勇。の。三。德。一。通。し。の。う。て
を。思。ひ。六。經。に。載。り。堯。舜。禹。湯。文。武。周。に。孔。子。に。在。り。
皆。天。命。を。主。し。し。の。う。て。云。ひ。也。以上

一。通。し。て。風。雲。雷。雨。の。天。地。の。妙。用。也。此。に。雷。に。收。生。し
注。し。る。事。也。是。より。外。に。他。の。愚。老。の。云。ひ。也。古。より

陰。陽。の。氣。也。或。は。鬼。神。の。所。也。或。は。獸。の。類。
也。平。竟。天。地。の。活。物。を。神。妙。不。測。可。り。物。と。人。乃
限。り。智。を。思。計。し。也。太。れ。の。諸。侯。の。在。り。也。
皆。推。量。の。沙。汰。と。も。さ。う。に。知。り。事。に。云。ひ。也。所
以。君。子。の。學。問。に。在。り。也。國。家。を。平。治。する。乃。と。そ。の。心
事。也。人。事。の。上。の。の。學。び。に。在。り。也。格。物。致
知。の。事。と。宋。儒。見。得。り。也。風。雲。雷。雨。の。沙。汰。
一。等。一。本。の。理。と。も。さ。う。に。知。り。事。に。云。ひ。也。其。心。入。と
る。より。天。地。の。間。の。わ。く。ゆ。る。事。を。極。め。り。何。の。事。

なり。あき人ハ己が同士にわく。家事ハ子に譲り
ぬき。再びふりさくも。次第に解成なり。事ハ
わく。棋多戦双六も打ち。奇策詭策。名了
の時。念佛もす。いふ。おはさりとて。不仕。其
作と制ある。何を不仕して寂寥を以て。然
る。老後。境界思ふ。其。其。佛法世に
もれり。千年小迫り。傍も天下一民。聖人
道ハ民を安んずると。仕。疝氣積聚の痼疾小
なり。偏執。瘡治を。是。是。除き。い

配。配ハ施。事。地。毒。天地。化育を
これ。佛法も。世ハ相。利。益
有。是。非。邪。正。別。入。不。顧。思
中。入。い



答問書上

Handwritten text in Arabic script, likely a signature or date, located at the bottom of the page.

谷

